

住民に親しまれる親水施設を 目指して ~ウツベツ川の実組~

帯広建設管理部 事業課

主任 川内 啓夢

ウツベツ川の現状①

ウツベツ川は帯広市街を貫流しており、川幅は約20mで河川沿いには家屋等が隣接している。昭和26年から平成5年にかけて改修が行われたが、近年の集中豪雨により頻繁に水位の上昇が発生していたことから治水計画を見直し、平成26年から50年確率規模の降雨により発生しうる洪水流量を安全に流下させる事を目的とした掘削・護岸工事を行っている。



ウツベツ川の現状②



南10線橋下流(上流部)



善隣橋より上流(中流部)



蹄橋より上流(下流部)

ウツベツ川は上流部から下流部の全川にわたって市街地内を流下し、中流部では緑地や動物園と一体となる区間がある。河川空間は環境教育の場として利用されているほか、地域住民の散策、通勤・通学、休日のサイクリングなど自転車道路としても利用されている。

河川環境は河床勾配が1/200～1/300程度で、河床は砂礫で構成されている。

また、魚類は緩やかな流れを好むフクドジョウや**重要種のヤマメ（サクラマス）**も生息している。

植物はクサヨシ群落が広範囲に分布し、**重要種のホソバドジョウツナギ**などが生息している。

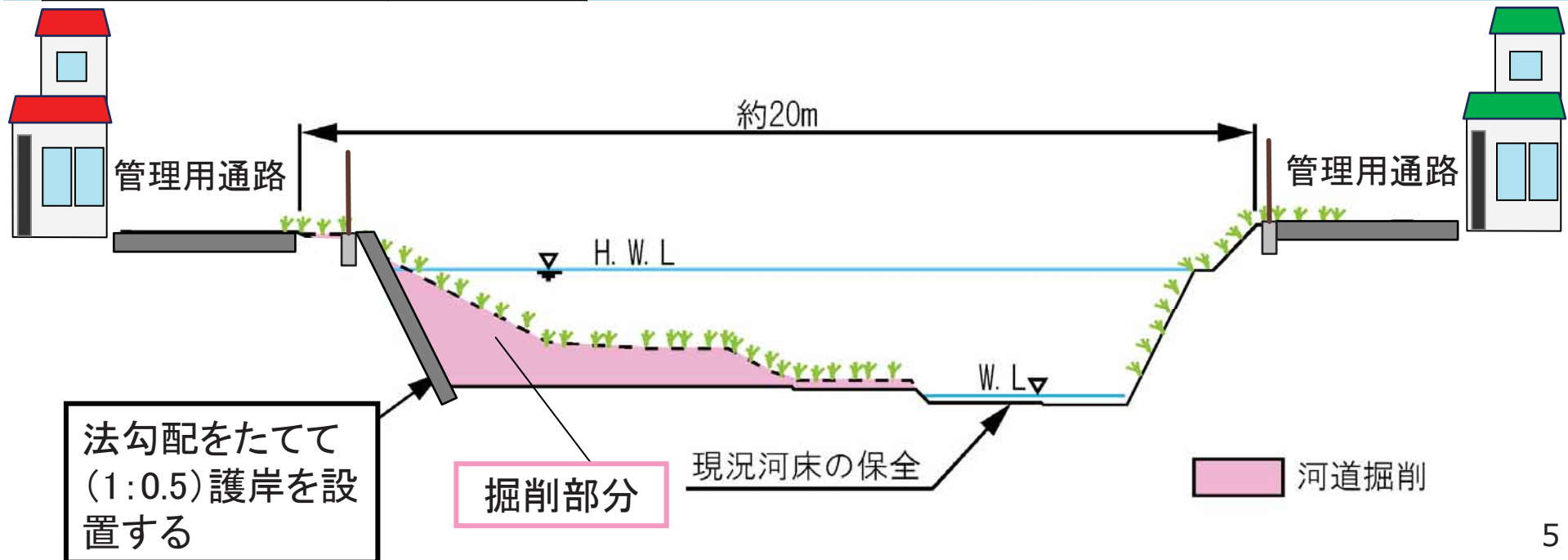
鳥類はヒヨドリが生息しており、オオジシキの繁殖行動が確認されている。

ウツベツ川の改修計画

家屋が近接しており、川幅を広げることが困難なため、最大限低水路を広げ河岸勾配を1:0.5とたてることで流下断面を確保する。



計画諸元	
計画規模	1/50
計画流量	110m ³ /s
計画河床勾配	1/328



ウツベツ川の改修済区間の環境

親水護岸の周辺状況について



親水護岸箇所

H30年2月

当該箇所の背後地には帯広厚生病院が移転開業（H30年11月）しており、院内保育園も併設されている。厚生病院側からの要望もあり、親水護岸を設置を計画した。

親水施設の課題



H30年3月

平成30年3月に親水護岸の工事が完了した。階段とスロープを設置したことにより、河川へ近づくことになった。しかし、川へ近づくだけで、それから何をするのか、どんな人々が使うのかが見えなかった。また、今後草木が繁茂し施設の利用に支障が生じることから、適切に維持していくことも必要であり、課題が残った。

左の写真は親水施設完成後のもの

親水施設のありかた

イメージパース



親水施設とは人々に使われて、はじめて本当に価値が生まれるものと考えた。この場にどんな人が集まり利用するか利用者の視点から考えることとした。この場所に隣接する厚生病院や院内保育園と打合せを行い、病院を利用する方や保育園の児童はどのような親水施設を望むのか協議した。

親水施設が目指すもの



親水施設で遊ぶ子供たち

ウツベツ川の親水施設は厚生病院や院内保育園も隣接していることから、保育園の園児たちが川に降りて魚の遡上や水生生物の観察ができる場所。また、緩和ケア病棟に入院している方や地域住民の方が散策し、季節を感じることができる憩いの場となるように整備・維持していくことを目指していく。

協働による施設の整備について



北海道管理河川の川づくり
ワーキングの開催状況



北海道管理河川の川づくり
ワーキングの現地説明状況

帯広建設管理部では「北海道管理河川の川づくりワーキング」を平成27年から年3回（会議2回、現地説明1回）開催しており、ここで帯広建設管理部管内の河川・砂防事業について環境保護団体と意見交換を行い、事業を実施している。ここでウツベツ川の親水護岸について報告したところ、今後の維持管理と整備を協力してくれる団体が現れた。

新聞記事 (川づくりワーキング)

より良い河川環境目指して

帯広建管 川づくりワーキング

【帯広発】帯広建管は25日、十勝合同庁舎で本年度第1回道管理河川の川づくりワーキングを開催した。建管をはじめ、十勝管内で自然環境保全活動を行う団体から12人が出席。本年度の施工内容や環境調査結果

などについて説明した上で、より良い川づくりに向けて意見を交わした。

ワーキングは、道管理河川の整備に当たって、治水安全性の確保を念頭に置いた自然環境保全対策について、地域住民や様々な団体

の意見を集約し河川整備計画の参考とすることが目的。

石井正樹事業課長は、ワーキングの議題などについて説明した上で、きいたくない意見を求めた。

座長に選出された帯広川伏古地区子ども水辺協議会の関川三男氏は、一般住民の意見を河川整備事業に反映させるワーキングの重要性にふれ、協力を呼びか



けた。

このあと、建管職員が砂防事業、河川事業の概要や本年度の施工内容、環境調査結果などを解説。本年度の河道内樹林伐採予定の概要についても説明した。

最後に意見交換を実施。「ウンベツ川の親水護岸は自然も戻りつつあり、子どもたちの遊び場にもなっており、非常に良い場所となっている」「居辺川11号床固工の完成後の様子は、河道が安定しており良い状況に思える。今後予定している掘削工の際には、現状を壊すことがないよう配慮してもらいたい」などの意見が挙がった。

自然環境に配慮した河川整備の在り方について意見を交換した

北海道通信 R2年9月29日版より

協働する市民団体について

**十勝川中流部
市民協働会議とは**



沿革

活動概要

当団体の前身となる十勝川中流部川づくりワークショップの終了に際し、参加メンバーが中心となり「自分たちの立案した計画の遂行に自分たちも参加する」ことを目的に、この団体を結成しました。その後、教育機関や他団体にも働きかけ流域住民の視点に立ち、地域の財産である十勝川の「より良い川づくり」を行うことを目的に活動しています。

また、治水のみならず、教育を通じて文化の継承や環境保全、そして水辺利活用を考え地域住民や次世代を担う学生のアイデアを活かしながら、「川づくりから地域づくり」への更なる発展を目指しています。

主な活動内容

- 高校連携** ・帯広工業高校環境土木科
→測量・採種・タンチョウ給餌場設置・防災
・帯広農業高校農業クラブ「中流部川づくり班」
→魚類等調査
- 河川文化の伝承** ・「十勝川アシリチェブノミ」、「十勝川サロルンリムセ」協賛
- 環境整備** ・相生中島上流湿地の維持、水辺の楽校整備
- 地域防災** ・防災講習、避難訓練サポート、「地域防災システム」運用
- その他** ・十勝川中流部川づくり報告会（年2回）
事務局会議（年6回程度）

※2016年3月、国土交通省の「河川協力団体」に指定される。

十勝川中流部市民協働会議

代表 柳川 久
〒080-0030
北海道帯広市大通北2丁目 十勝川インフォメーションセンター内
TEL 0155-23-2160 FAX 0155-22-2991

〈開館時間〉9:00～17:00 〈休館日〉毎週月曜日、年末年始 〈入場料〉無料
〈アクセス〉車 ▶帯広駅より車で7分
バス▶十勝バス：「音更線」「上土幌」「藤平」「十勝川温泉」行きで7分+「西2条1丁目」下車徒歩約5分
・拓殖バス：「一中線」行きで7分+「西2条1丁目」下車徒歩約5分

<http://churyubu.eco.coocon.jp/index.html>



2020年7月作成

今回、ウツベツ川で協働する市民団体は十勝川中流部市民協働会議（以下、十中協）で、「水辺の楽校」の活動を支援したり、地元の高校と連携して環境調査を行っている。

また、国土交通省の「河川協力団体」に指定されている。

ウツベツ川の親水護岸は十中協と協働して整備・維持作業を行うこととした。

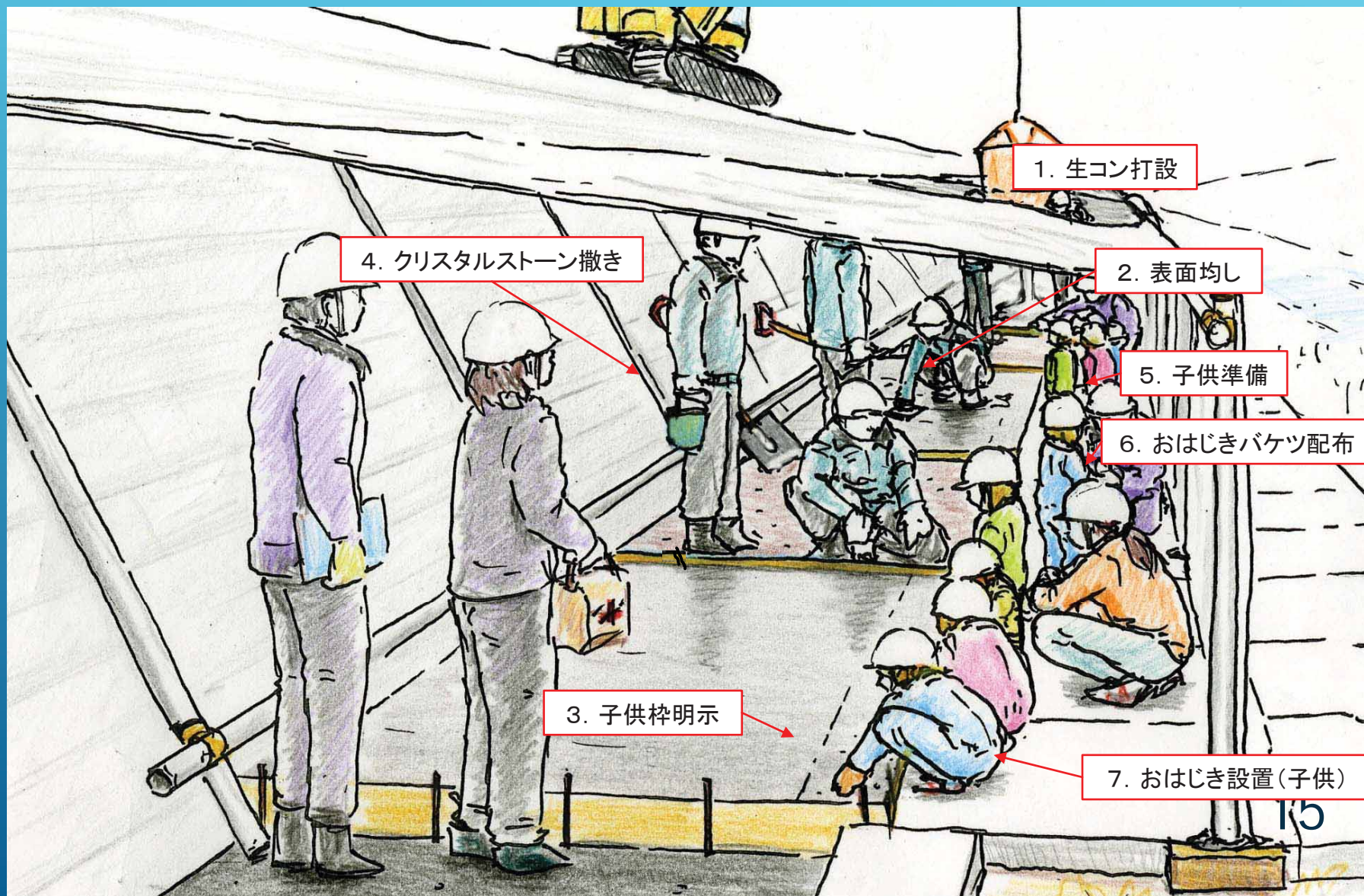
親水施設の整備①（根固め設置）



H31年3月

親水施設は十中協と共に厚生病院と打合せを行い、園児が川に降りて遊べる様に根固めブロックを河床に設置した。また、園児たちが参加できる整備内容について考案し、親水護岸ステップに「おはじき等」を装飾することを実施した。

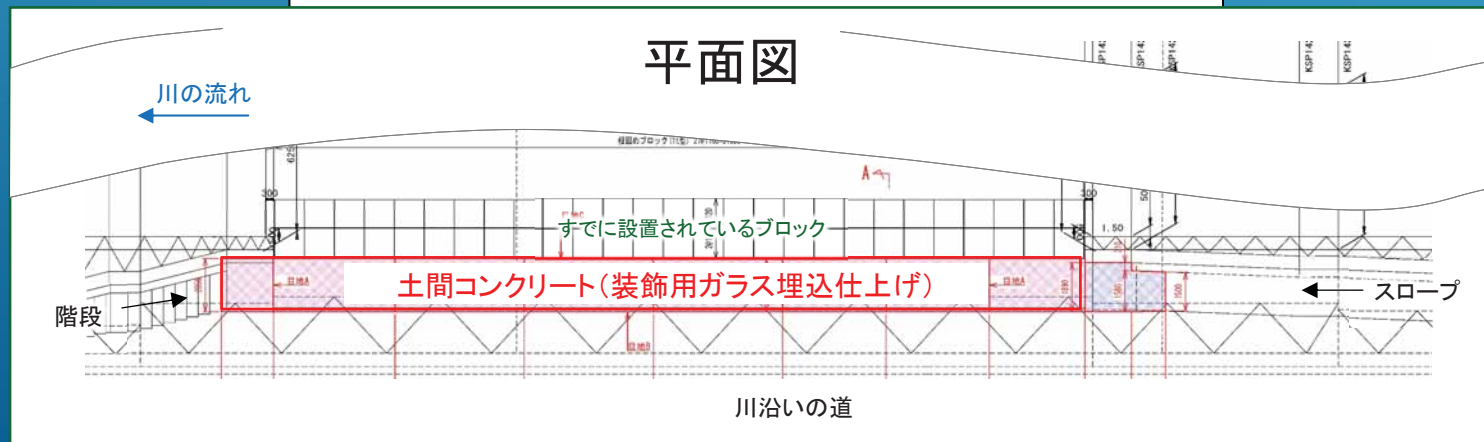
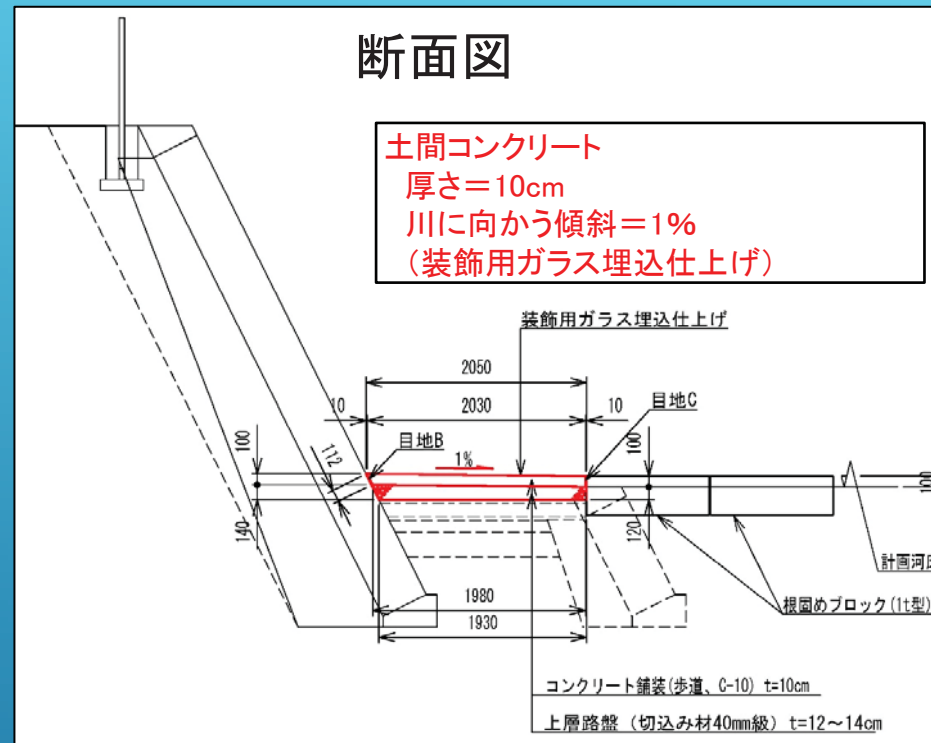
親水施設の整備②（おはじき設置）



親水施設の整備②（おはじき設置）



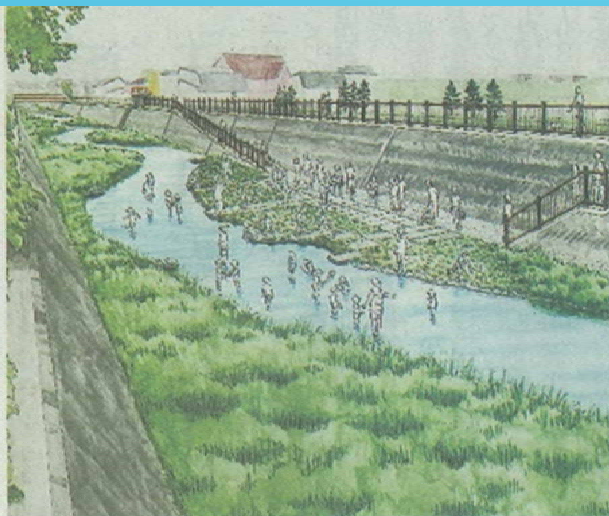
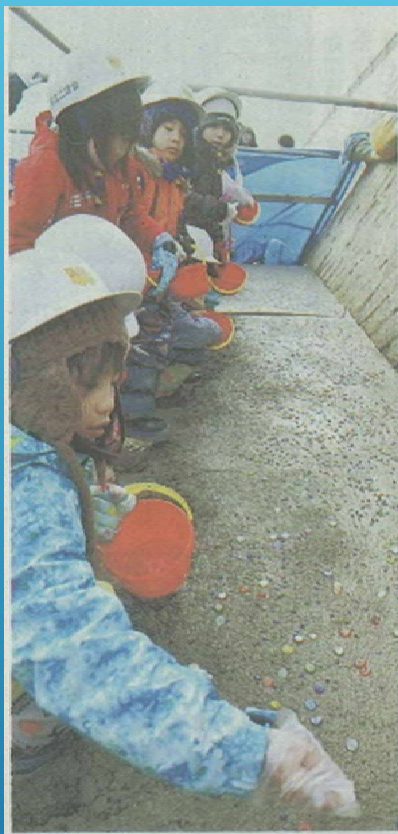
親水施設の整備②（おはじき設置）



園児たちの作業体験



新聞記事（おはじき設置）



川と親しめる空間のイメージ図（帯広建設管理部提供）

ウツベツ川護岸装飾へ

厚生病院付近憩いの場に

十勝総合振興局帯広建設管理部は、帯広市内を流れるウツベツ川の改修工事に合わせて、帯広厚生病院近くの水辺を地域住民の憩いの場として整備する。4日午前、同病院とめぐり保育所の子どもたちが護岸現場のコンクリートを、色とりどりのおはじきで彩った。

2014年にスタートした「帯広川広域河川改修事業」(ウツベツ川地区、延長7・6キロ)。整備を進めている護岸付近には厚生病院があり、入院患者や保育所の園児、住民らが集う場を作ろうと、同部事業室事業課の西洋美主任が、おはじきなどを使った護岸装飾を発案した。

参加した9人の子どもたちは、バケツに入れたおはじきやガラス材を思い思いの方向に散らした。装飾する区間は約30分で、子どもたちや工事業者が関わり完成を目指す。

護岸部には車椅子対応のスロープや階段などが整備されており、3月中に利用できる見込みだ。

十勝総合振興局の三井真局長は「子どもたちに思い出をつくらせてもらい、川や道路を大切する意識も定着させたかった。川は危険なだけではなく(住民が集い)楽しめる場所」と話している。(本田龍之介)

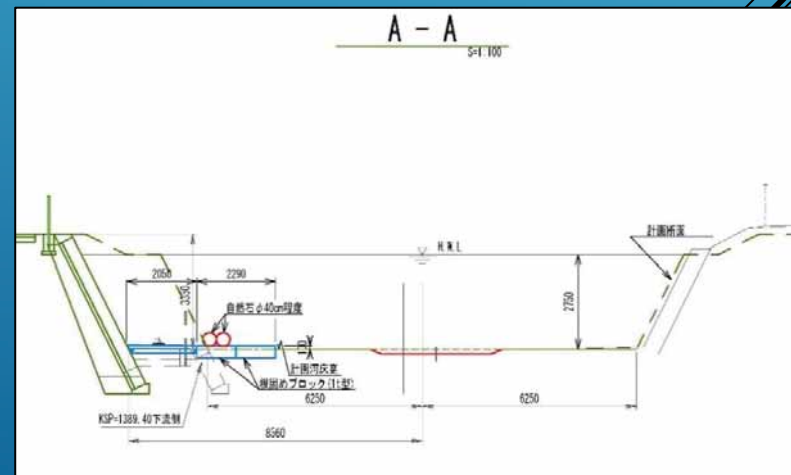
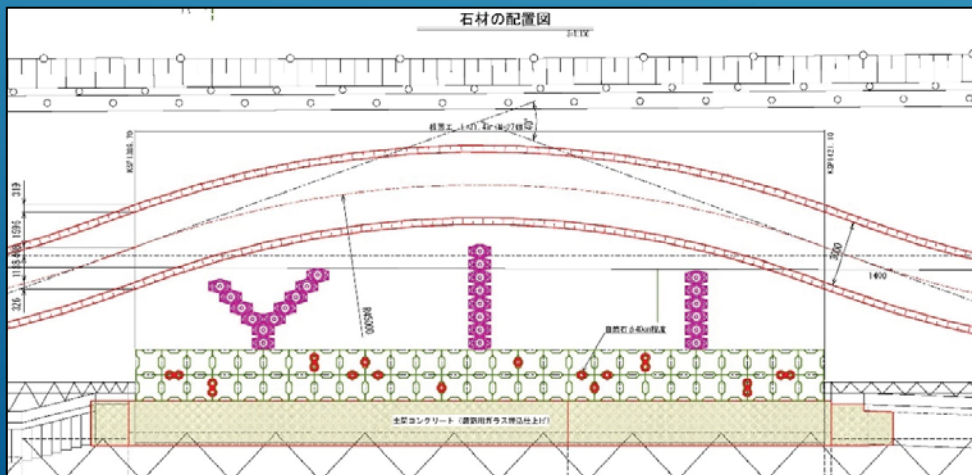
河川工事の一環で、おはじきを散らす子どもたち

親水施設の整備③（玉石設置）



R2年9月

今年度は人が休憩できる椅子や物を置ける場所が欲しいとの要望があったため、設置後の河積阻害断面への影響や洪水による流失等を検討し、直径40cm程度の石であれば、人が座ることもでき、河積阻害や洪水時に流失の恐れが無いことから、7月に十中協と協働して設置した。また、同時に親水護岸周辺の草刈りや河川清掃を行った。



現地作業状況と園児たち(玉石設置)



新聞記事（玉石設置）

ウツベツ川 快適な遊び場に

帯広 市民団体、川岸などに石設置



川辺に設置された石に触ったりして遊ぶどんぐり保育所の園児ら＝ウツベツ川

市民団体の十勝川中流部市民協働会議は、帯広建設管理部と協力し、帯広厚生病院付近を流れるウツベツ川を整備するボランティアを行った。川辺に降りられるよう親水護岸工事が施さ

れた場所に石を大小40個搬入し、子供が川遊びをする際に腰掛けたりできるようにした。同団体会員と道職員ら20人余りが参加し、20日に実施した。石の購入費10万円

は同団体の積立金から支出した。石は川辺だけでなく、川の中にも設置された。川の流れに変化を与えることで多様な生物が生息しやすくなるという。

設置後、帯広厚生病院とどんぐり保育所の園児7人がさっそく川辺を訪れ、「ザリガニがいた」などとはしゃいだ。同団体の事務局を担当するアークコーポレーション（帯広）の和田哲也専務は「今後も子供たちと一緒に生物観察に取り組みなどしていきたい」と話していた。

（幸坂浩）

北海道新聞(夕刊) R2年7月30日版より

親水施設の整備④（植樹・看板設置）



四季が感じられる様な植物の設置や入院患者のリハビリ、住民の散歩時に目標・目印となる看板の設置について病院からの要望を受け、10月に十中協と協働し設置を行った。植物は市内に自生し、実がなるヤマグワとマユミとした。看板には周辺に生息する動物が描かれた物を用意し、設置は院内保育園の園児たちにも協力してもらった。また、園児たちを対象とした水生動物観察会も十中協が同日に開催した。



親水施設の整備④（植樹・看板設置）

ウツベツ川 厚生病院付近 看板設置及び植樹予定地



<看板設置候補地（フェンスに設置）>



階段入口付近から西13条橋間



スロープ入口から階段入口間

<植樹予定木：約10m間隔で合計10本程度>



ヤマグワ：夏に黒い実がなり、食べられます



マユミ：秋にピンクの実がなります（食用不可）

協力団体との協働のメリット

今までの親水施設は河川管理者が設置するが、その後の維持管理が十分でなかったり、親水施設を利用する市民・住民の意見を反映できていないものが多かった。



立入禁止となっている親水施設もある

市民団体（十中協）と河川管理者（帯広建設管理部）で協議を行い、親水施設について協働して整備・維持を行っていくことで合意した。



十中協の働きは、親水施設周辺の草刈り等や隣接している厚生病院や近隣住民から意見を聞き取り、その意見を取り入れた整備内容の提案、その整備実施時に一緒に作業を行うこと。

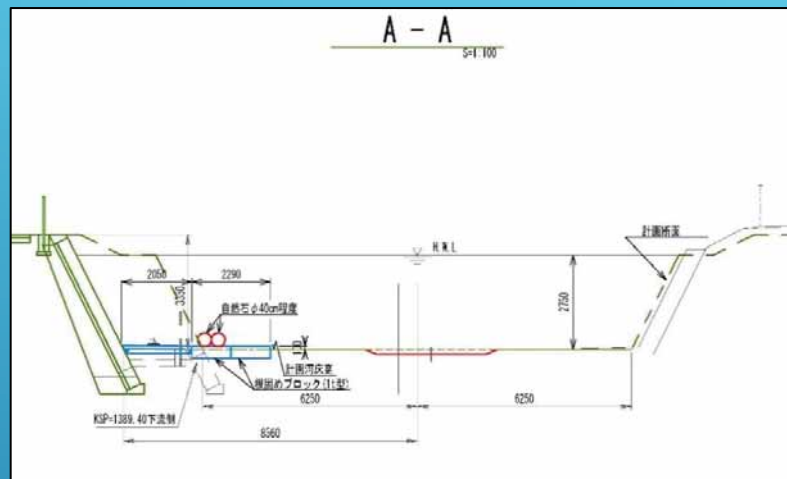
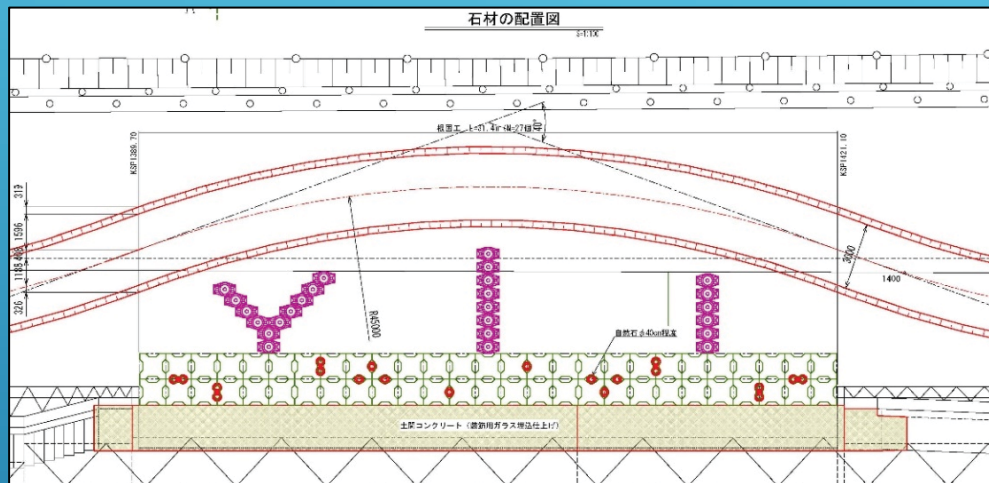


帯広建設管理部は提案があった整備内容について、法律的・技術的に実行可能か検討し、十中協と協働して整備・維持を行う。



親水施設やその周辺エリアの改善や改良が終わること無く、継続していく。イメージ図の進化・更新が行われ、**いつまでも利用してもらえる親水施設**となる。

今後の親水施設の整備・活用予定



今年の11月下旬には渇水期でも水位が20cm程度確保され、サクラマスなどが遡上しやすくなるように低水路の改良を行う予定です。また流れにさらなる変化を与えるために河床への礫の投入などを実施する予定です。また、いろいろな市民団体と協働して、子供たちと水生動物観察会等を実施して施設を活用する予定です。今後も十中協などの市民団体や住民と協働して人々が集まるような親水施設の整備・維持を実施していきます。

イメージパースと親水施設の現在



イメージパース



令和2年9月30日現在

左は当初考案した親水施設のイメージパースで、右は令和2年9月30日現在の親水施設の様子です。

当初考案したイメージパースの姿に現実の姿が追いついてきたことがわかります。今後はこのイメージパースを進化・更新し、よりよい親水施設を目指していきたいです。

ご清聴ありがとうございました。



R2年2月 おはじき装飾後の園児と建管職員